
そんな1人はどう映るの？

夢太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そんな1人はどう映るの？

【Nコード】

N12900

【作者名】

夢太

【あらすじ】

僕は冬の朝を歩く。肉まんを食べながら。

（前書き）

超短いです。

声を発しません。「僕」が思う事だけです。

冷えた肉まんをほおばる。僕は小さくため息をついた。
白い息があたかも肉まんからの湯気のように見える。
透き通る朝の空は痛いくらいに空気をはりつめる。
十字路に差し掛かり太陽の光が空気に触れる。
柔らかな日差しは僕のはりつめていた心にさえ触れた。

君を想った。

なんで気付かなかったんだ。こんなに君を好きなこと。
もつともつと愛せばよかった。

色んな所へ行つて、色んなことをして。

どうして君がいなくなつてからの方が君を好きになるんだろう。

新しいものを見なくなる。だけどそれはすぐに古くなる。

新しいって1度きりなんだ。だからもつたいぶりたくなるんだ。
だから楽しみはあとにとっておきたくなるんだ。

振り返れば君がいそうで。

隣を見れば君が笑つてそうで。

何度も首は君を求めるけど上手に見つけられない。

鼓動が忘れた「ときめき」はたぶん瞳が君を映さないと思いだせない。
い。

電車の乾いた音が鳴り響く。静寂は終わりを告げる。
今君は何を思うの？その首は、その瞳は・・・？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1290o/>

そんな1人はどう映るの？

2010年10月17日02時42分発行